



# 特別支援だより

令和4年 6月 8日(火)  
社会福祉法人弘文会  
浦添市公私連携神森こども園  
園長 仲本 あゆみ  
特別支援コーディネーター  
前田 やよい  
(公印省略)

～年少・年中の保護者の皆様へ～

進級・入園してから2カ月が経ちました。お子様の様子はどうでしょうか？少しずつ園での生活が分かり、おともだちと関わって遊んだり、園でのルールを理解できるようになってきました。家庭でも園の様子を話す事が増えてきているのではないのでしょうか。

そんな中、保護者の皆様の中で、お子さんの様子で次のような事で困っていることはありませんか？

・話をする際視線が合わない・落ち着きがない・多動性や衝動性があり、集中力が続かない・気持ちのコントロールが苦手など、お子様の発達に関して気になる点や困っている事などが有りましたらクラス担任や特別支援コーディネーターまでお気軽にご相談ください。

## ・発達に課題のある子は、こんなことに困っています。

### ・周囲の刺激に対して容易に反応してしまう。

集中力が乏しくあちこちに気が散ってしまい落ち着きがない子と問題視されがちですが、子どもにしてみると、次から次へと耳に入ってくる音、視界に飛び込んでくる気になるおもちゃ、といった周囲の刺激に体が勝手に反応してしまう。

### ・人の気持ちや場の状況をキャッチできない。

人が何をしているのかを直感的に感じ取り理解する事が難しくその場にふさわしくない言動をしてしまうことがあります。例えば滑り台の所に複数の子ども達が立っているのを見ても、それは、順番待ちの列だという事が理解できず、列に割り込んで滑ろうとしてしまうことが見られたりします。

### ・周囲に理解されにくい特有の過敏さがある。

他の人には気にならない日常的な刺激を苦痛に感じる子もいます。よくあるのが音に対する過敏さです。音をさえぎろうと両手で耳を塞いで大声を出したり、他にも、光、温度、感触、におい、味、食感などに対する敏感さが見られます。

### ・人に自分の思いを伝えられない

場の状況が分からず、混乱したり、不快な思いや、苦痛を感じると、パニックになることがあります。「困っている」「不快」「こうしてほしい」といった思いを人に伝えることができずに困ってしまう。

※関わり方や環境を工夫する事で子どもの抱える困難さを軽減する事ができます。

### ・次にすることのイメージが持てない

活動の切り替えがうまくできず、今している活動の次に何をするのかイメージを持つことができない

お子様が楽しく生き活きと園生活が送れるように、ひとり、ひとりの発達を見つめ、その育ちを共に支援していく事を目的として「浦添市巡回支援事業」があります。

巡回相談では個別相談に合わせて日常、園で過ごす様子を見ながら、保護者・園と共有して困りごとを一緒に考えていきます。

ご希望・ご相談があれば、担任または、コーディネーターまで声をかけてください。

